



[ 特集 ]

ひび割れた川床から植物の球根(食用)を探すベラ族の人々。ブルキナ・ファソ(アフリカ) 写真提供:PPS通信社

# 水飢饉の世紀

人類存続の大前提である水処理関連技術は、どこまで進んでいるか。

地球は豊富な水に覆われた「水の惑星」といわれる。しかし、そのほとんどは海水で

私たちが日常利用する河川や湖からの淡水は、全地球の水のわずか0.01%にも満たないという。

近年、その貴重な淡水が枯渇し、恐るべきスピードで砂漠化が進行している。

いまから20年足らずの2025年には、世界人口の2人に1人が水に窮するという予測もある。

20世紀は石油の世紀だったが、

21世紀は水の世紀といわれる。

水は地上に生きる全生命体の源であり、

すべての産業もまた、水なしには成り立たない。

その深刻度は石油の比ではないはずだ。

既にさまざまな高度濾過技術などによって

水のリサイクルは実用化されてはいるものの

加速する人口爆発と温暖化に対し

淡水の絶対量は追いつくべくもない。

昨今では海水の脱塩技術の研究も盛んになり、

中東などで実用化も進められているが、

費用対効果に優れたテクノロジーは

どこまで進んでいるのだろうか。

今号では、生命存続の大前提である水問題の現状と水処理関連技術の最前線について探ってみた。